

4. ごみゼロワークショップ

ごみゼロワークショップ（北勢）

日 時：平成17年2月2日（水） 11:00～15:00

場 所：桑名市リサイクル推進施設 「クルクル工房」

参加者：県民17名、県8名

<内容>

○クルクル工房現地見学

桑名市のリサイクルの現状について学んでいただくため、桑名市リサイクル推進施設クルクル工房の見学を行いました。

また、桑名市職員から、クルクル工房の概要についての説明がありました。

○ごみゼロ社会実現プラン策定状況、プラン中間案の説明

○グループ別ワーキング

テーマ：「ごみゼロ社会を実現するためには何が必要か？」

「自分自身では何ができるか、何をやってみたいか？」

1グループ4～5名程の4グループに分かれ、上記テーマについて話し合い、それぞれグループの意見をまとめ発表しました。

※グループ別ワーキングのまとめは次ページのとおり

<クルクル工房見学>



<グループ別ワーキング>



A班

「ごみゼロ社会を実現するためには何が必要か」

無味化する

企業の新製品
に分別は必要か？
ごみの中で分別
が一番多量に
無味化する
無味化する
無味化する

分別意識を高めた

皆が認識を
高めること
分別意識
ごみ発生量を
減らす
家庭、事業者、地
方自治体の
みなさんの
協力を
まちがいを
なくす

「自分自身では何ができるか、何をやってみようか」

事業化運営
管理の協力

事業化
への行動
資源回収
センター
運営

ひとり
方法を
ごみ
分別
回収
センター
(4-4-7)

アイデア

アイデア
提案
ケイタイの
利用

服部 茂樹
永井 正博
仲尾 徹

物比事比
便利

ゴミの増肥化

烟花の作り
生ゴミを堆肥
に再製する
生ゴミケース
の利用

生ゴミの堆肥
化
生ゴミを
土に混ぜる
協同
作業

分別作業の協力

分別マニ
をわなす
分別
の作業
分別を
はたす
決められた
分別をす
(発生ゴミ)
資源ゴミの
分別に協力
出来る

公平性の確保

ゴミの有料化
とごみの量
お金で
市民に
返す
出しやすい
方法
やりやすい
方法

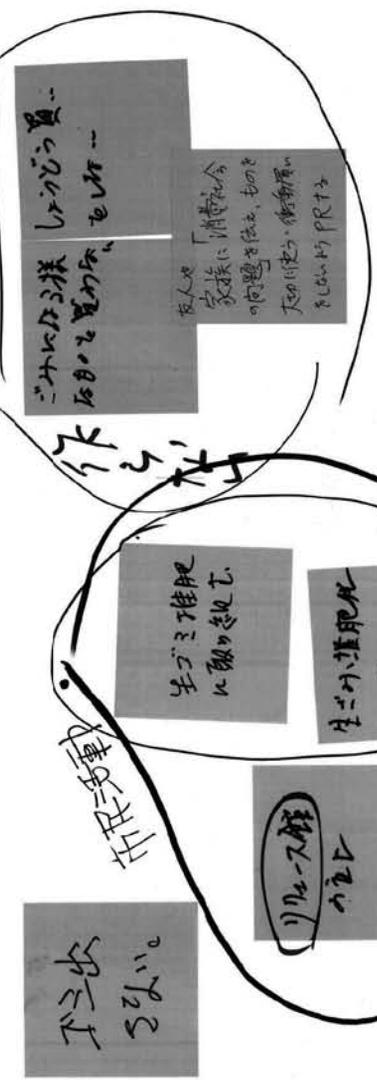
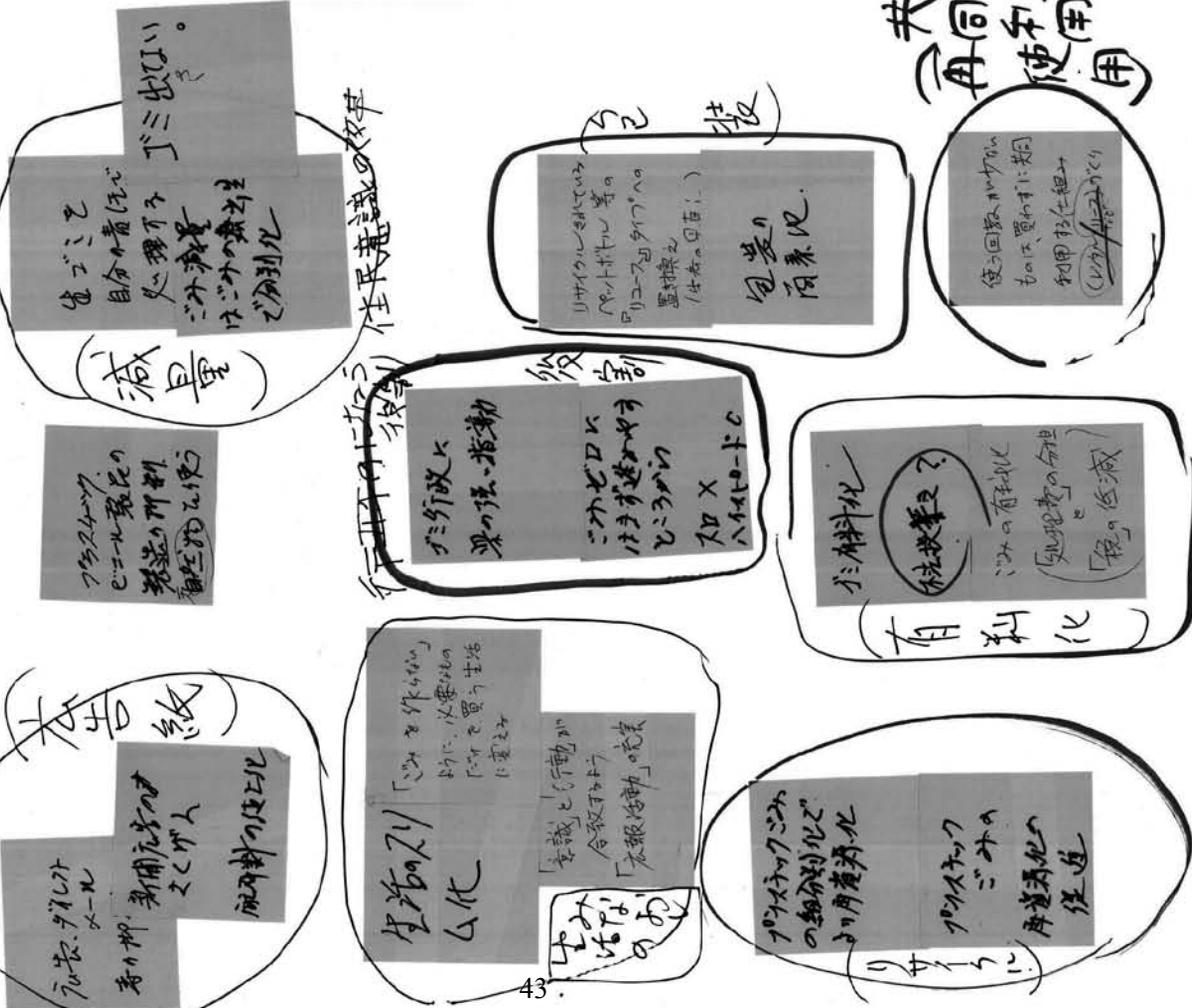
発生量の抑制
減量は
システム化
事業化

教育・PR

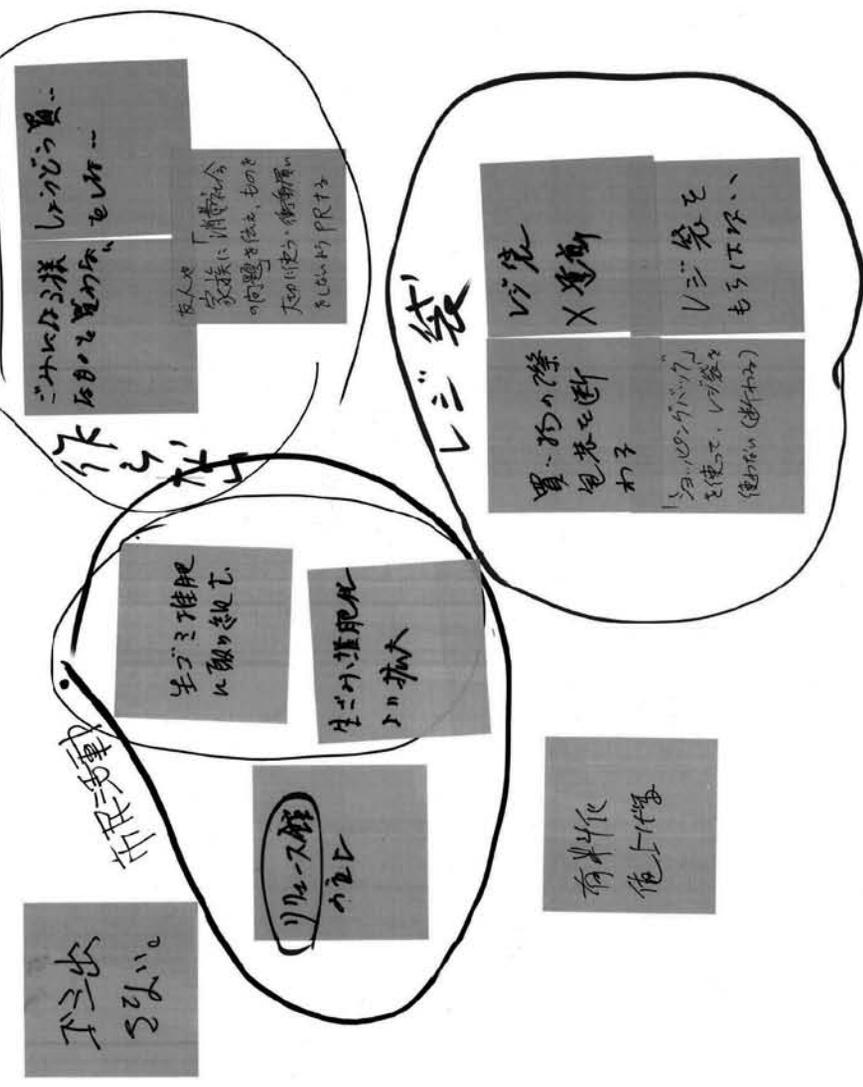
行政がPRを
しつづける
ガイドライン
マニュアル
地域へ巡回
と協理者
の研修
行政のPR
を早める
情報
早くつた

政策のスピードアップ!

「ごみゼロ社会を実現するためには何が必要か」



「自分自身では何が出来るか、何をやってみてみたいか」



山崎川和

住民意識の向上!

「車の買い替え時期を遅くする」

「紙の消費量を減らす」

ごみゼロワークショップ（津）

日 時：平成17年1月22日（土） 10:00～15:00

場 所：アスト津 食工房

参加者：県民13名（小学5・6年生及び保護者）、環境学習情報センター2名、県5名

<内容>

○エコクッキング

講師：環境学習情報センター 環境学習推進員 矢口芳枝 氏

- ・ エコクッキングの説明 「エコクッキングって何？」
- ・ 料理の作り方の説明
- ・ 料理

4つのグループに分かれて、それぞれ役割分担をして調理しました。

野菜切り、パン切り、マヨネーズ作り etc

メニュー・・・3色オープンサンド（手作りマヨネーズ添え）

残り野菜で作るスープ

○ごみゼロ社会実現プラン策定状況、プラン中間案の説明

○グループ別ワーキング

テーマ：「20年後こんな社会にしたいな！」

子ども1グループ、大人2グループの計3グループに分かれ、上記テーマについて話し合い、グループの意見をまとめ発表しました。

※グループ別ワーキングのまとめは次ページのとおり

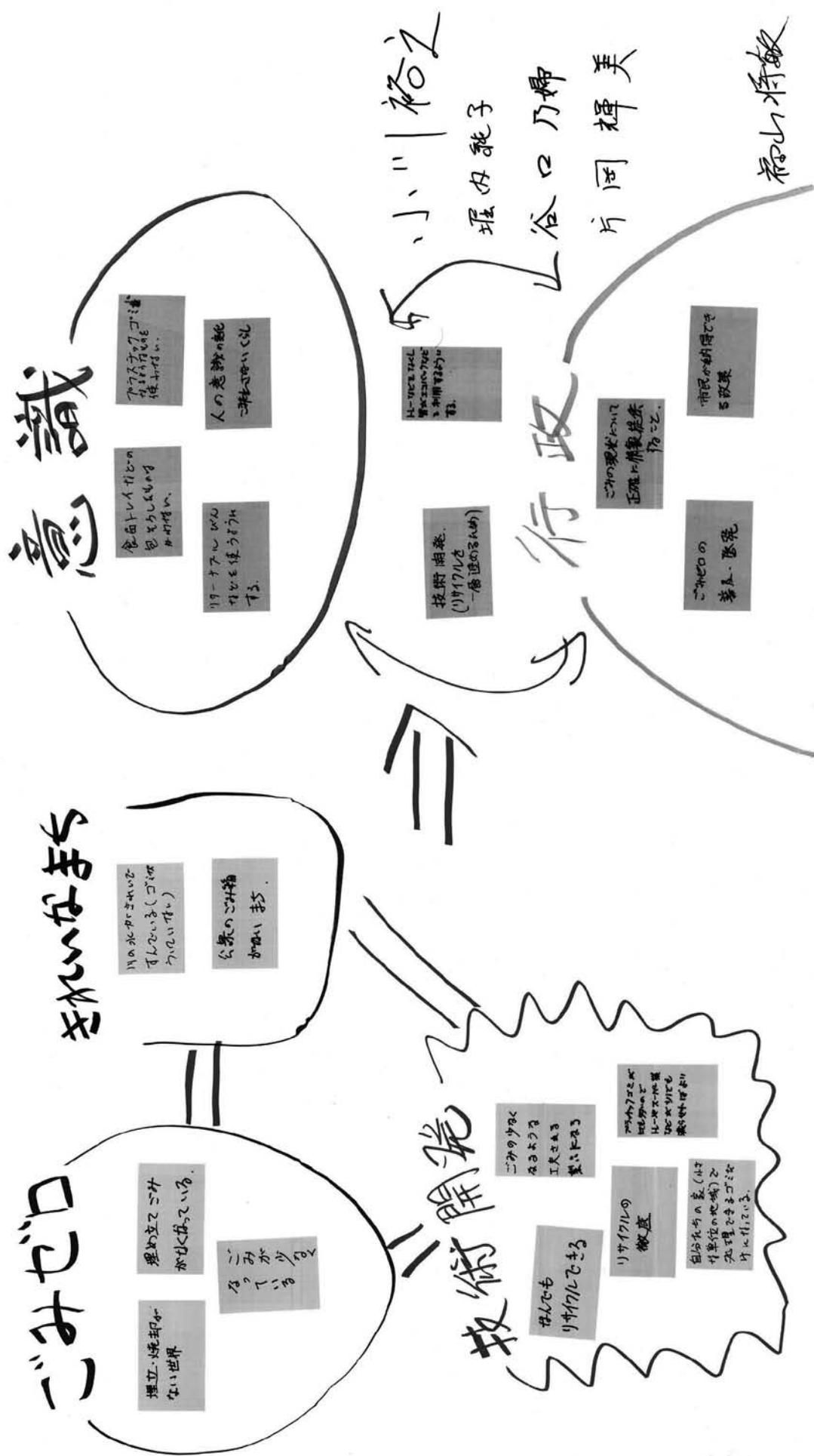
<エコクッキング>



<グループ別ワーキング>



◎20年後の理想の社会 ⇒ どうすればいいか。



トイシノ事例

30年間、学校現場で
「トイシノ」の活動（研究）
にコミットし、勉強（努力）
時間をとってきた。

学校
学舎

コメンタリー

企業⇄環境教育⇄地域

家族

「トイシノ」は、学校現場から
始まりました。
先生、保護者、子ども、
地域の人々、企業、
行政、関係者、
多岐にわたる方々
が、それぞれの役割を
果たして、
「トイシノ」を
支えています。

「トイシノ」は、
学校現場から
始まりました。

鈴木文子
吉田規子
小塚洋子
矢口芽枝

修成小学校
5-1 新井 杏奈

戸井小学校
百保 帆内花

修成小学校
5-1 新井 杏奈

地球

みんなの心を
つなぐために
心をこめて
描きました

地球を大切に
守るために
みんなが
協力して

地球を
大切に
守る

地球を
大切に
守る

地球を
大切に
守る



地球を
大切に
守る

地球を
大切に
守る

地球を
大切に
守る

ゴミO社会花

6-A 丸山 玲奈



地球を
大切に
守る

女成小
5-3
谷口 実沙

南立誠小学校
6-2
堀内美寿

南立誠小学校
6年2組
西口 あすか

ごみゼロワークショップ（南勢志摩・松阪）

日 時：平成17年1月22日（土） 9：45～16：00

場 所：ウェルサンピア伊勢

参加者：県民32名、市町村4名、県11名

<内容>

○基調講演及び意見交換会

テーマ：「ゼロ・ウェイストへの取組」

講 師：徳島県上勝町まちづくり推進課 松岡夏子 氏

※講演要旨、意見交換概要は次ページのとおり

○リフレッシュタイム

「童謡・唱歌を歌おう」

アコーディオン演奏 小山充 氏

○ごみゼロ社会実現プラン策定状況、プラン中間案の説明

○グループ別ワーキング

テーマ：「ごみゼロ社会を実現するためには何が必要か？」

「自分自身では何ができるか、何をやってみたいか？」

1グループ8～9名程の3グループに分かれ、上記テーマについて話し合い、それぞれグループの意見をまとめ発表しました。

※グループ別ワーキングの発表概要、まとめは別紙のとおり

<上勝町松岡氏講演>



<グループ別ワーキング>



講演「ゼロ・ウェイストへの取組」

—徳島県上勝町まちづくり推進課松岡夏子氏—

【講演の要旨】

○ 上勝町について

① 町の社会的自然的特性

- ・ 人口 2197人
- ・ 世帯数 862戸
- ・ 高齢者率 44.53%
- ・ 森林面積率 86.53%
- ・ 位置 県庁の南西約40km、徳島市から車で約1時間



上勝町の位置

② 「彩 (いろどり)」ビジネス

新たな地域の産業おこしとして成功している。地域の豊かな自然資源を、都市の飲食産業のニーズと上手く結びつけた。毎朝、その日売れる葉っぱの情報が住民に流され、それに応じる形で住民が葉っぱを収穫、市場にのせるという仕組み。



葉っぱをお金に換える



○ 徹底する34分別

- ・ 平成10年までは、各家庭での野焼きが一般的なごみ処理方法であった。
- ・ 34分別導入のきっかけは、平成10年に小型の焼却炉を2基導入したが、平成12年1月に施行されたダイオキシン対策特別措置法により、小型焼却炉が使えなくなったこと。
- ・ 町で対策を検討した結果、焼却方式からの脱却を目指すこととした。

上勝町資源分別方法

毎日の収集	
場所 日比谷谷コミステーション	収集時間 毎日午前7時30分から午後2時まで
<ul style="list-style-type: none"> ① プラスチック (PETボトル、PETボトル以外のプラスチック容器、プラスチック製容器包装) ② スチール缶 ③ スプレー缶 ④ 金属製キャップ ⑤ びん類 (清涼飲料水、ビール、酒) ⑥ その他のびん類 (醤油、みそ) ⑦ その他のガラス製容器・包装 ⑧ 乾電池 ⑨ 乾電池 (単三、単四) ⑩ 乾電池 (単三、単四) ⑪ 乾電池 (単三、単四) ⑫ 乾電池 (単三、単四) ⑬ 乾電池 (単三、単四) ⑭ 乾電池 (単三、単四) ⑮ 乾電池 (単三、単四) ⑯ 乾電池 (単三、単四) ⑰ 乾電池 (単三、単四) ⑱ 乾電池 (単三、単四) ⑲ 乾電池 (単三、単四) ⑳ 乾電池 (単三、単四) ㉑ 乾電池 (単三、単四) ㉒ 乾電池 (単三、単四) ㉓ 乾電池 (単三、単四) ㉔ 乾電池 (単三、単四) ㉕ 乾電池 (単三、単四) ㉖ 乾電池 (単三、単四) ㉗ 乾電池 (単三、単四) ㉘ 乾電池 (単三、単四) ㉙ 乾電池 (単三、単四) ㉚ 乾電池 (単三、単四) ㉛ 乾電池 (単三、単四) ㉜ 乾電池 (単三、単四) ㉝ 乾電池 (単三、単四) ㉞ 乾電池 (単三、単四) ㉟ 乾電池 (単三、単四) ㊱ 乾電池 (単三、単四) ㊲ 乾電池 (単三、単四) ㊳ 乾電池 (単三、単四) ㊴ 乾電池 (単三、単四) ㊵ 乾電池 (単三、単四) ㊶ 乾電池 (単三、単四) ㊷ 乾電池 (単三、単四) ㊸ 乾電池 (単三、単四) ㊹ 乾電池 (単三、単四) ㊺ 乾電池 (単三、単四) 	<ul style="list-style-type: none"> ① 資源物 (紙類、紙製容器包装) ② 資源物 (紙類、紙製容器包装) ③ 資源物 (紙類、紙製容器包装) ④ 資源物 (紙類、紙製容器包装) ⑤ 資源物 (紙類、紙製容器包装) ⑥ 資源物 (紙類、紙製容器包装) ⑦ 資源物 (紙類、紙製容器包装) ⑧ 資源物 (紙類、紙製容器包装) ⑨ 資源物 (紙類、紙製容器包装) ⑩ 資源物 (紙類、紙製容器包装) ⑪ 資源物 (紙類、紙製容器包装) ⑫ 資源物 (紙類、紙製容器包装) ⑬ 資源物 (紙類、紙製容器包装) ⑭ 資源物 (紙類、紙製容器包装) ⑮ 資源物 (紙類、紙製容器包装) ⑯ 資源物 (紙類、紙製容器包装) ⑰ 資源物 (紙類、紙製容器包装) ⑱ 資源物 (紙類、紙製容器包装) ⑲ 資源物 (紙類、紙製容器包装) ⑳ 資源物 (紙類、紙製容器包装) ㉑ 資源物 (紙類、紙製容器包装) ㉒ 資源物 (紙類、紙製容器包装) ㉓ 資源物 (紙類、紙製容器包装) ㉔ 資源物 (紙類、紙製容器包装) ㉕ 資源物 (紙類、紙製容器包装) ㉖ 資源物 (紙類、紙製容器包装) ㉗ 資源物 (紙類、紙製容器包装) ㉘ 資源物 (紙類、紙製容器包装) ㉙ 資源物 (紙類、紙製容器包装) ㉚ 資源物 (紙類、紙製容器包装) ㉛ 資源物 (紙類、紙製容器包装) ㉜ 資源物 (紙類、紙製容器包装) ㉝ 資源物 (紙類、紙製容器包装) ㉞ 資源物 (紙類、紙製容器包装) ㉟ 資源物 (紙類、紙製容器包装) ㊱ 資源物 (紙類、紙製容器包装) ㊲ 資源物 (紙類、紙製容器包装) ㊳ 資源物 (紙類、紙製容器包装) ㊴ 資源物 (紙類、紙製容器包装) ㊵ 資源物 (紙類、紙製容器包装) ㊶ 資源物 (紙類、紙製容器包装) ㊷ 資源物 (紙類、紙製容器包装) ㊸ 資源物 (紙類、紙製容器包装) ㊹ 資源物 (紙類、紙製容器包装) ㊺ 資源物 (紙類、紙製容器包装)

○ 生ごみ対策

町のごみ行政の成功の鍵は、生ごみを町の収集ステーションから完全にシャットアウトしていること。生ごみは基本的に次の方法で処理。

- ・コンポストによる堆肥化
- ・ごみナイス（乾燥式生ごみ処理機）
→約480世帯で導入済み。1戸当たり10,000円の自己負担。



コンポスト



ゴミナイス

○ 収集車の走らない町

- ・ 四国電力の廃施設を譲り受け、町の拠点回収施設「日比ヶ谷ステーション」を設置。行政は、ごみ収集をしないで、住民が自らごみをこのステーションに持ち込むという仕組み。ステーションでは、町職員が分別等の指導を行っている。
- ・ 町内の幹線（県道）沿いにあり、住民は、徳島市へ買い物に行く途中などに立ち寄るなどの形で利用している。
- ・ 34分別といっても、各家庭でそれだけのごみ箱を置くということではなく、家庭では自分たちが出しやすいように分けてごみを保管し、ステーションに持ち込んでから分別項目ごとのコンテナに分けて排出している。コンテナには、そのごみがどのようにリサイクル・処分するのかが示されている。
- ・ 家庭で不用になったが、まだ使えるものを置いておくスペースもあり、他の家庭で有効利用できるようになっている。
- ・ 私たちは今、声高に分別やリサイクルなど訴えかけているが、上勝町の高齢者の方はずっと前から、当たり前のようにごみを出さない（ごみが出にくい）暮らしを営んでいる。ごみを出さない生活文化、知恵が地域に根づいている。大切なことは、モノを大事にするといった気持ちである。



○ ステーション持ち込み方式のメリット・デメリット

【メリット】

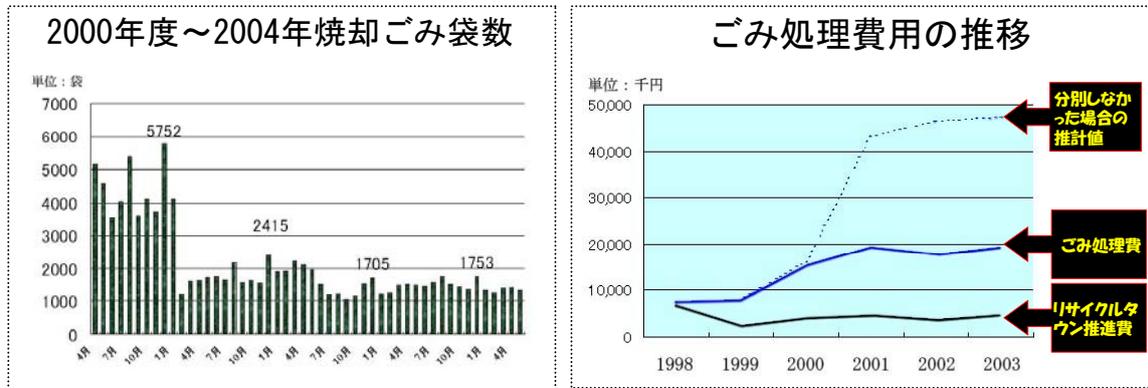
- 他人任せにならない。
- ステーションで分けることによる意識付けができる。
- 減量へのインセンティブが働く。

【デメリット】

- 町民、特に高齢者の方にとっては手間。経済的な負担もある。
→解消のために・・・、
 - ・ ボランティア団体「利再来上勝」が立ち上がり、支援している。
 - ・ シルバー人材センターによる有償でごみ収集を請け負うサービス（5袋で525円、一袋増えるごとに105円アップ）
- ・ 地域内での協力

○ ごみ処理システムの転換による成果

- 新たなシステム（2001年から導入）により焼却量は激減
- ごみ処理費用は、
 - ・ 従来のごみ処理システムを続けたとき→焼却委託により5万円弱
 - ・ 新たなシステムを導入した結果→増加傾向にはあるが2万円弱



○ ゼロ・ウェイスト宣言

平成15年9月に町として、「上勝町ゼロ・ウェイスト宣言」を行った。

- 1 地球を汚さない人づくりに努めます！
- 2 ごみの再利用・再資源化を進め、2020年までに焼却・埋め立て処分をなくす最善の努力をします！
- 3 地球環境をよくするため、世界中に多くの仲間をつくります！

→ 三点目については、東南アジアでは日本で不用になったパソコン等をリサイクルするため、子どもも含む多くの人々が劣悪な労働環境の中で働いている。日本の中だけでリサイクルを考えていてはいけない、といった趣旨のもとに盛り込まれた。

○ 平成15年度視察実績・・・194自治体、2103人

○ シルバー人材センターを活用した布団、座布団の再生利用・・・3年越しの夢

高齢者の方が、再生布団、再生座布団を作成し、500円で販売している。高齢者にとって、日々の生活の中での生き甲斐、やり甲斐のある仕事になっている。



○ 中学生による「GO美箱」バーゲン

毎月第4日曜日に、中学生が住民に提供してもらった不用品を販売している。作文コンクールで優秀賞をもらった中学生に話を聞くと、賞金で中学校の生徒と先生が全員産業廃棄物の不法投棄が問題になった香川県の豊島に勉強に行くとのこと。環境教育の大切さを実感した。



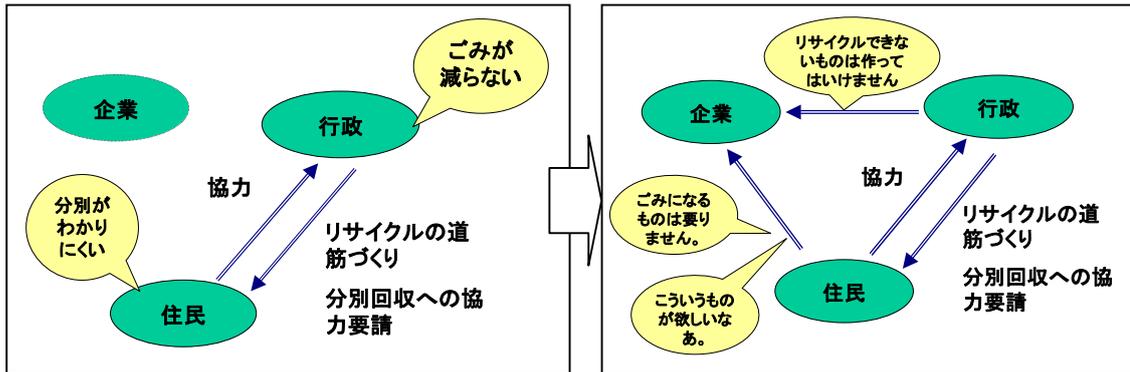
○ NPO法人ゼロ・ウェイトアカデミーの設立に向けて

町の取組により、焼却量は減ったが、資源にまわった分を合わせるとごみ自体は減っていない。

→ 今後は、ごみの量そのものの削減に取り組むことが必要。

→ 企業の経済活動の影響は大きい。企業に対しての働きかけ、生産者としての責任の徹底を求めていく必要がある。しかし、行政が率先してそうした働きかけを行うことについては、地域の経済・産業との関係もあり住民等の理解が得られにくい。

→ こうした課題に取り組むNPO法人の設立を進めている。



○ ゼロ・ウェイトアカデミーの展望

① ゼロ・ウェイト推進の普及・啓発

多くの市民・行政にゼロ・ウェイトを広げるためのイベントやツアーを実施する。

② ゼロ・ウェイトに関する調査研究

③ ゼロ・ウェイトスクールの設立・運営

ゼロ・ウェイトについて学びたい、環境を仕事にしたいという人の拠点づくり。

④ ゼロ・ウェイト商品の開発・普及

○ 推進のための方策

◆ ゼロ・ウェイト推進基金が上勝町に創設されました。

寄付の第1号は、中学校の卒業生2人。自分たちが環境の勉強をするために海外へ行きたいと思って貯めたお金を寄付してくれた。

◆ ゼロ・ウェイトアカデミーは会員を募集しています。

正会員 5000円/年(個人)

賛助会員 3000円/年(個人)

【意見交換の概要】

Q：廃油の処理はどうしているのか？

A：徳島市の業者に処理を依頼している。住民主体の団体による廃油を利用した石けんづくりなどの活動もある。

Q：デンマークに滞在されたがそうだが、向こうの状況はどうか？

A：デンマークに1年間滞在した。日本同様、ごみ政策は市町村によって異なる。滞在した町では、ごみは2分別。「生ごみ」と「それ以外」に分けて袋に入れ、家の前のコンテナに出しておく行政が回収するという仕組み。生ごみは、生分解して熱を回収し、主に暖房に利用している。

生ごみ以外のごみは、高い費用で整備した施設で、分別センサーにより機械選別し、再利用している。

ごみ処理の実態としては、2分別ですら上手くいってなくて、いろいろな問題が起きていた。その結果、昨年5月にはシステムがストップしてしまった。

環境の取組について、ヨーロッパが手本にされることがあるが、必ずしもヨーロッパのやり方が良いというわけではない。重要なことは、地域に住む人たちが自分たちで、それぞれの地域に合った良いやり方を考え、責任を持ってやっていくことだろう。

良い例として、「佐那河内村」の職員の方が上勝町の取組に触発されたことがきっかけで、住民・地域主導での取組が展開されている。自分たちでやり方・システムを考え、責任を持って実行している。

Q：上勝町では価値観、生活様式がある程度均一であったことが、上手くいっている要因ではないか？

A：そんなことはない。最初は何回も地区の座談会をやって、それで合意が形成された。世代間の意識、ライフスタイルの違いははっきりとある。

Q：不法投棄についてはどうか？

A：不法投棄は減っていないが、34分別のために不法投棄が増えたとは捉えていない。そもそも「分別はしないとイケないもの」という考え方に立っている。デポジット制度とか考えている。

Q：生まれた地域との違いはどうか。

A：西宮市は町が分別するシステム。上勝町に来たとたんにごみ箱が増えた。

Q：コンポストでは虫がわくなど問題もあると思うがどんな対策はとっているのか？

A：住宅が密集していないなど地域性もあり、特に対策は必要となっていない。

Q：すぐ近くでも持っていけない人がいる。

A：ポイント制を導入するなど考えてはどうか。

Q：家庭での生ごみ処理は、町として義務づけているのか？

A：義務づけてはいないが、ステーションでは受け入れていないため、自ら処理せざるを得ない。処理方法は、各家庭で選択している。

Q：松阪市では、地域マネジメント（地域内自治、地域のことは地域で考える）を進めようとしているが、どうすればよいか悩んでいる部分もあるようだ。ごみ処理の課題から波及するものとして、教育や福祉があり、さらにそれがコミュニティの再生などにつながっていくこともあると思うが？

A：ゼロ・ウェイストの発想から、せっかく身近に森林資源が豊富にあるのだから利用すべきだということになり、チップボイラーの燃料として利用するなどの取組が始まっている。ゼロ・ウェイストを進めることが、地域の自立、経済も含めた地域の豊か

さの向上につながっていくこともあると思う。

Q：上勝町は合併するのか？

A：現在のところ見送っている。

Q：ごみ処理費について、どこまで減らせると考えているか？

A：難しい問題であり、数値としては答えにくい。ごみを減らすためのポイントとして、容器包装ごみを減らすということがある。リターナブル製品の利用を進めることも必要。そのために、宅配サービスの仕組みを活用することも効果的ではないか。

Q：若い人の目をごみ問題に向けるためにはどうすればよいか？裾野を広げるにはどうすればよいか？

A：危機的な状況にならないと人は変わらないと思う。便利なものがあれば、多くの人はどうしてもそちらへ流れる。「デザイン」がキーワード。デザインの良さと環境負荷の少ない製品を結びつけていけば、若い人はそちらを選択するようになると思う。

Q：割り箸を分別収集しているが、何に使うのか？

A：パルプの原料にする。

Q：町が動いたきっかけは何か？

A：ダイオキシン対策により現実問題として、困ったことが起きたということ。それとトップの考え。

Q：高齢者の方が元気なようなので、山の手入れなどがなされていると思うが、町内の環境資源に対する取組はどうか？

A：山の荒廃は進んでいる。山に入ってもお金にならない時代。野生生物の対策なども必要になってきている。そうしたことからチップボイラーの取組なども始まった。都市との交流を通して自分たちの住む町の資源に気付かされるという部分もあると思う。

Q：上勝町に移り住んで良かったこと、悪かったことは？

A：空気水がきれい。交通が不便、アクセスが悪いこと。良いことの方が多い。日本の食文化の豊かさに気付かされた。

Q：企業として環境問題に取り組んでいるが、恒久的な取組にしていくことの難しさ、社内教育の難しさを感じている。

A：今後とも市民、行政、NPOと協力して取り組むことが必要である。

Q：町としてNPOの設立に取り組むというのはおもしろい。どのような経緯があったのか？

A：企業に対していろいろ働きかけていかなければならないと考えたが、拡大生産者責任の徹底を町として進めるのはおかしいという見方もあるって、NPO設立の発想が生まれた。

Q：粗大ごみの回収と処理は、どのようにしているのか？

A：町民がステーションに持ち込み、町職員1名、シルバー人材センター1名で金属類を選り分けるなどの処理している。受け入れは月1回日曜日である。

ごみゼロワークショップ（伊賀）

日 時：平成17年2月1日（火） 13:00～16:00

場 所：伊賀市青山公民館 中ホール

参加者：県民15名、伊賀環境問題研究会6名、環境学習情報センター3名、県6名

<内容>

○ごみゼロ社会実現プラン策定状況、プラン中間案の説明

○いろいろな「生ごみ堆肥化の方法」の説明

（説明：伊賀環境問題研究会 会員）

バケツによるサンドイッチ方式での処理方法等の説明がありました。

○グループ別ワーキング

テーマ：「生ごみ減量化について」

- ①生ごみの堆肥化を始めたきっかけは？
- ②実際に行ってみて、「良かった点」「悪かった点」について
- ③生ごみ堆肥化の感想

1グループ6～7名程の3グループに分かれ、上記テーマについて話し合い、それぞれグループの意見をまとめ発表しました。

※グループ別ワーキングのまとめは次ページのとおり

<生ごみ堆肥化の説明>



<グループ別ワーキング>



47IL-70y 生涯設計 唯我化

取り組みを始めた きっかけ

人生設計
人生設計の重要性
人生設計の重要性
人生設計の重要性

見学

中核の役割
環境の改善を促す
中核の役割

団体活動

人生設計の重要性
人生設計の重要性
人生設計の重要性

人生設計の重要性
人生設計の重要性
人生設計の重要性

個人活動

中山 本 田 田
辻 上 橋 福 吉

悪かた

人生設計の重要性
人生設計の重要性
人生設計の重要性

場外必要

人生設計の重要性
人生設計の重要性
人生設計の重要性

資金

人生設計の重要性
人生設計の重要性
人生設計の重要性

近所迷惑

良かた

人生設計の重要性
人生設計の重要性
人生設計の重要性

意識向上

人生設計の重要性
人生設計の重要性
人生設計の重要性

利益還元

人生設計の重要性
人生設計の重要性
人生設計の重要性

ゴミの減量

感想

人生設計の重要性
人生設計の重要性
人生設計の重要性

仲間

人生設計の重要性
人生設計の重要性
人生設計の重要性

願

人生設計の重要性
人生設計の重要性
人生設計の重要性

減量化

人生設計の重要性
人生設計の重要性
人生設計の重要性

継続性

ごみゼロワークショップ（紀北）

日 時：平成17年2月19日（土） 13:00～16:30

場 所：海山町リサイクルセンター

参加者：県民19名（内市町職員6名）、県4名

<内容>

○海山町リサイクルセンター視察

海山町のごみ処理の現状について学んでいただくため、海山町リサイクルセンター内にある、RDF施設、リサイクルセンターの視察を行いました。

また、海山町職員から、廃食用油リサイクルの取組状況についての説明がありました。

○ごみゼロ社会実現プラン策定状況、プラン中間案の説明

○グループ別ワーキング

テーマ：「ごみゼロ社会を実現するためには何が必要か？」

「自分自身では何ができるか、何をやってみたいか？」

1グループ6～7名程の3グループに分かれ、上記テーマについて話し合い、それぞれグループの意見をまとめ発表しました。

※グループ別ワーキングのまとめは次ページのとおり

<海山町リサイクルセンター見学>



<グループ別ワーキング>



[A班]

「ごみゼロ社会を実現するためには何が必要か？」

堀井 傳史

企業は「ごみに
なるものをつくらない！」

田中 順子

昔の様に
ばかり売りに
おはへまと思
ひは入らな
い様に
買いだめを
減らす

経典の掬
を減らす
上流 元
断の様に
「使い捨て
を減らす」

過剰な
包装を
減らす

考之消費者は

買う時
物で
ごみになる
を
買わない

大事に使う

大切に
何度も使う
物を大事に
使う

平山 公子

貴重品
と
使い捨て
物の
区別

回収し
る物
と
回収
しない
物

回収し
る物
と
回収
しない
物

回収し
る物
と
回収
しない
物

分別

分別を
徹底する

人は分別
ゴミは分別
分別とイナ

家族と
教育

関心
持つこと
ゴミに対する
小こころが
教育が重要

家族みんなで
話し合う

リサイクル

資源として
使えりものは
資源として
使う

リサイクル
製品が
おと
ま
る
の
通
報
?

再利用
ゴミの
再利用
する

再利用
材料を
使う
おと
ま
る

家庭の
リサイクル

この
心
で
な
ま
く
燃
か
せ
な
い

自然
自
足
を
も
た
え
る
心
を
も
た
え
る

物
の
少
な
い
を
も
た
え
る
心
を
も
た
え
る

リサイクル

A班

「自分自身では何ができるか、何をやってみたいか？」

青

ゴミを減らす

丸山 友樹

水谷 大

いり物だけ
買う習慣を
つくる

ゴミが出ら
な物を買わな
い様にしたい

必要な物
を買い

ゴミの減量

生ごみは必ず
畑にあげて土に
生ごみを虫ごみ
(土に埋める)

まごみの肥料
にしてリサイクル

食事は
使い切る

サランラップを
使わない。
(サランラップも使う)

本当にゴミか？
資源として
使えるものが？

ゴミの分別を
徹底する

ゴミを
分別する

分別を確実に

柳井 博史

再利用できるものは
資源として再利用

油を下水に
流さない

悪い洗剤
を使用しない

はた地は
せんじんに作り
使う

一歩 西

松下 隆夫

濱中 静子

バイワ 野郎



B

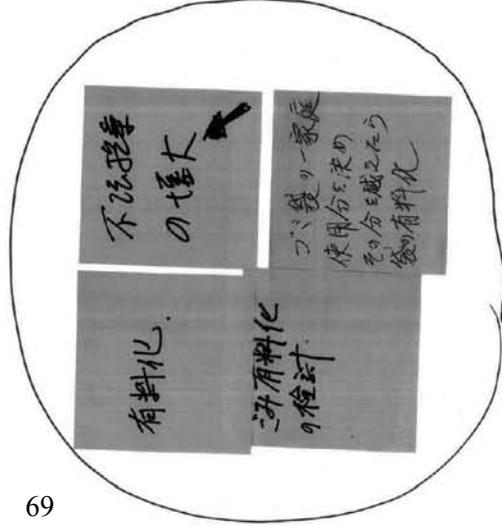
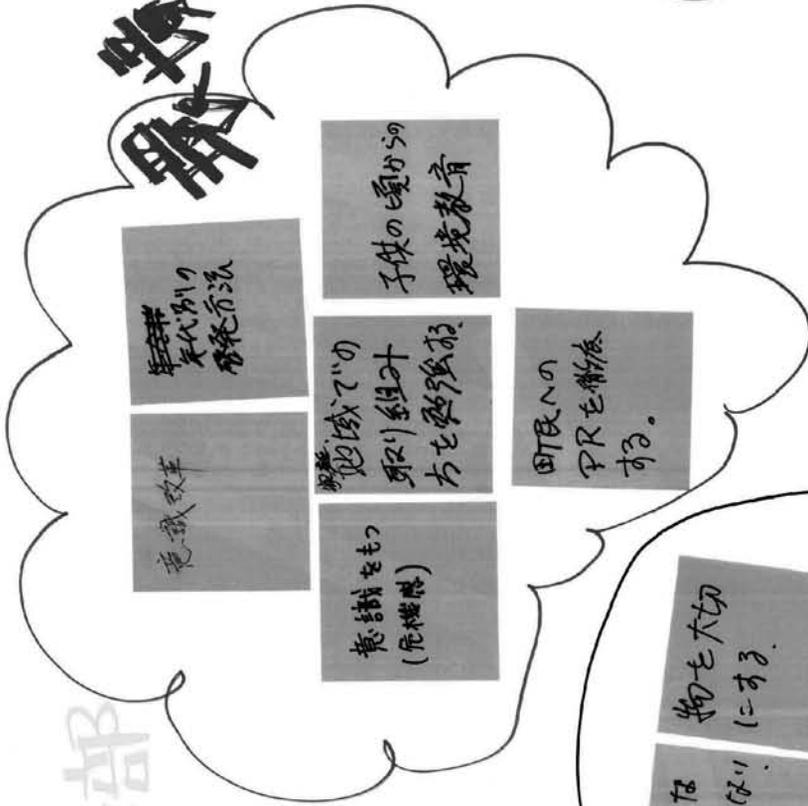
「ごみゼロ社会を実現するためには何が必要か？」

消費者

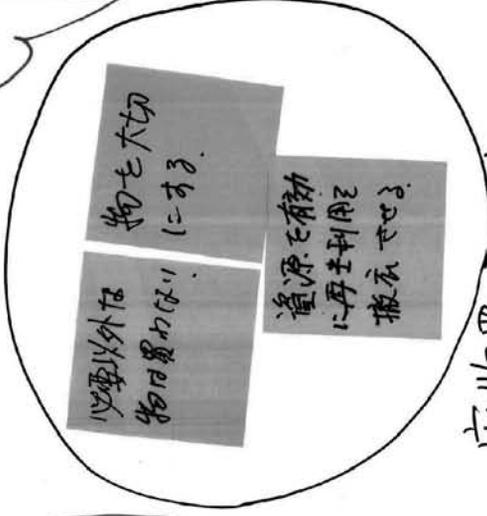


服部

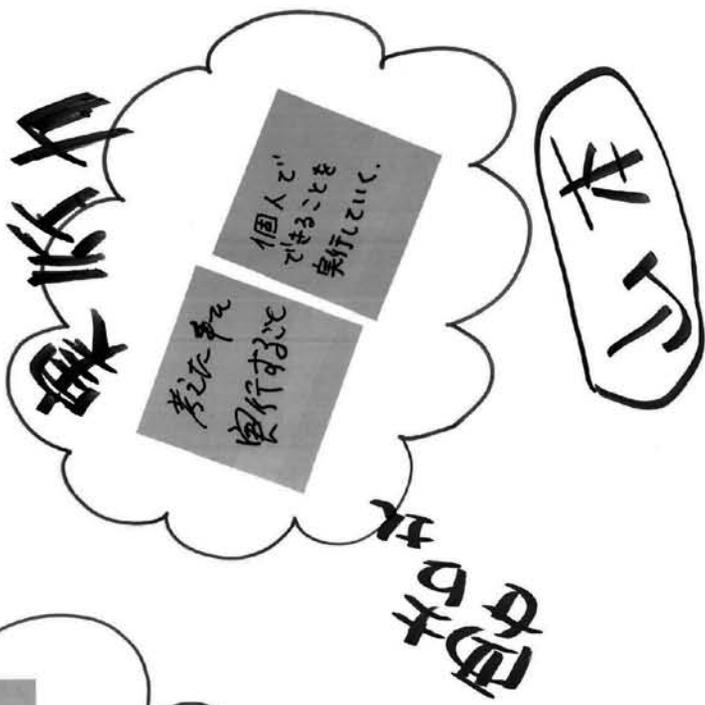
環境教育



石倉かつみ



上田



B

「自分自身では何が出来るか、何をやってみたいか？」

食

服部

東 雅人

コンビニ、スーパー等で袋の品物を入れていますよね！

買った物の時、マイバックを持参する

レジ袋を省く

マイバックなど

子供への環境教育

町民にゴミの分別を促すPRをする。

家庭内での教育

教育・PR

自分自身リサイクルしできる物がどうかを判断して買う。

リサイクル製品を買う

グリーン購入

再活用

リサイクル

必要以外の物は買わない。

押し入れ等整理し、1ヶ月も買わない。

必要最低限の物だけ買わない

不要なモノは処分

整理整頓

石倉かつみ

自らの家庭のゴミ処理と行方。

生ゴミの堆肥化の徹底

生ゴミ処理機によるゴミの減量

毎日の食事で食べ残しを減らし、余りな料理を作らない。

生ゴミ

上田

「ごみゼロ社会を実現するためには何が必要か？」

住民への意識啓蒙

地域住民への
丁寧な説明
意識改革

・誰が（説明）
・どこ（説明）
・なぜ（説明）

大規模な自治体
変革への最低限の
準備と計画

「ごみゼロ」を
やるべき理由
資源に乏しい

資源ゴミの分別
・資源化、減量化

有料化

吉田元元

分別の徹底

分別の徹底
・分別の徹底
・分別の徹底

分別の徹底
・分別の徹底
・分別の徹底

リサイクルを
可能な環境に
する

植村正子

植村俊弘



植村俊弘

減量化

不平等を買った
時袋をなるべく
与らさず作り、

各家庭に与える
ゴミは（ゴミ）
の量を減らす？
（調査の結果）

「減量化」の
意味は「減らす」
こと。ゴミの量を
減らすこと。減らす
こと。減らすこと。

・ゴミの量を
減らすこと。
（減らすこと）
（減らすこと）
（減らすこと）

環境教育

社会全体の
取組。環境
生活。環境。減量

学校での
環境教育
（授業）

植村俊弘

植村俊弘

ごみゼロワークショップ（紀南）

日 時：平成17年1月23日（日） 12:30～17:00

場 所：県熊野庁舎 5階 第9会議室

参加者：県民12名、県8名

<内容>

○有馬不燃物処理場視察

熊野市のごみ処理の現状について学んでいただくため、有馬不燃物処理場内にある、生ごみ堆肥化施設等の視察を行いました。

また、熊野市職員から、廃食用油リサイクルの取組状況についての説明がありました。

○ごみゼロ社会実現プラン策定状況、プラン中間案の説明

○グループ別ワーキング

テーマ：「ごみゼロ社会を実現するためには何が必要か？」

「自分自身では何ができるか、何をやってみたいか？」

1グループ6～7名程の3グループに分かれ、上記テーマについて話し合い、それぞれグループの意見をまとめ発表しました。

※グループ別ワーキングのまとめは次ページのとおり

<生ごみ堆肥化施設見学>



<グループ別ワーキング>



「ごみゼロ社会を実現するためには何が必要か？」

A

制度

データベース(容器)州会
制度を定めてやる。

リサイクルの
構造

生産者

生産者の責任の強化。

中央官庁と大手企業の
意識改革!!

ごみに苦しむ小規模企業に
つくばせ

啓発

緑の森、水、緑の山

「緑の中を歩くと、心がすくすくと癒える。自然の恵みを大切にしよう。」

ごみの問題は、私たちの生活に直結している。ごみを減らすことは、地球を救うことでもある。

ごみを減らすことは、地球を救うことでもある。ごみを減らすことは、地球を救うことでもある。

環境教育

市民運動に
してゆく

意識

個人(個人)の責任を定めた。

個人(個人)の責任を定めた。個人(個人)の責任を定めた。個人(個人)の責任を定めた。

自然責任、自然の恵みは有限(生かす)
自然の恵みは有限(生かす) 人間社会 自然の恵みは有限(生かす)
自然の恵みは有限(生かす) 人間社会 自然の恵みは有限(生かす)

「ごみゼロ社会を実現するためには何が必要か？」

ごみ処理の体制

ごみの有料化

ごみ処理の体制

作りの責任

企業責任の異なり
ごみは違う
製品が違う

再利用

不用品交換
再利用
再利用

ロゴジのリサイクル

リサイクル!

再利用
再使用

コストがかかる
やるか?

B

人の意識を高める

個人の意識を高める

地域での話し合い
(勉強会)

子供の時から教える

地区ごとの話し合い

モラル向上
↑
環境学習

一人一人の意識を高める

B

「自分自身では何が出来るか、何をやってみたいか？」

購入

環境に配慮した
製品を 買うこと

つめ替え
商品を買う

不必要な物
を買わない

3R 取組
~~Recycle~~
リユース 再使用
リデュース 削減抑制
リデュース 再資源化

排出

生ごみの資源化
(堆肥)

ごみ分別
分別可容こと

分別

「ごみゼロ社会を実現するためには何が必要か？」

家庭での生ごみ処理

生ごみの処理状況

個人処理方法の確立

ごみに存在しない買わない

生産者の消費者の合意形成に過剰包装を減らす

ごみの回収処理
(ごみに回収するのをごみがない！)

ごみの分別

ごみの分別
分類別ごみの分別
分別ごみの回収率の向上
分別ごみの回収率の向上

ごみの資源化率を高める
→ 資源化率の向上

「ごみ」の定義を変えよう

環境教育

地域住民の教育
地域住民の環境意識向上

環境教育
(学校での環境教育)

行政が中心に推進するのではなく、一人ひとりの意識を高める(環境教育)

環境教育

ごみ問題意識の啓蒙
・人づくり
・ネットワークを結ぶ

ごみ有料化

ごみを出した人に相応の負担をさせる
(ごみの有料化)

ごみ処理の有料化

ごみの有料化で削減する
→ 意識は高まる

ごみ処理の有料化
ごみ削減の先進国事例の調査に学ぶ

企業努力

① 1990年代以降の革新
・ 知識技術
・ 資材

廃棄物ゼロを目指す
100%リサイクル

行政の責任

① 環境コストの内部化(PR)
②

地域活動

ごみ削減の先行は地域の住民の活動
ごみ削減の先進国事例の調査に学ぶ
・ 婦人会
・ エコクラブの活性化

③ 地域コミュニティの向上

「自分自身では何が出来るか、何をやってみたいか？」

分別の徹底

① 回収日分別収集の徹底
 市町村に合った
 分別の徹底
 (授業への教育)

ものを大事に ごみになるものを買わない

また使えるモノを
 やたらと捨てない
 ② 使えぬ品はリサイクル
 ③ 家の整理を怠らなくて
 必要以上のモノを買わない
 モノを大切に
 長期使用可能
 (減量減費)

リサイクル商品の推進

リサイクル商品の購入

① リサイクル商品の購入
 ② リサイクル商品の購入

生ごみの堆肥化

生ごみの堆肥化
 生ごみの堆肥化
 生ごみのリサイクル
 (堆肥化)
 生ごみの堆肥化
 園芸
 家庭での堆肥化
 ① 生ごみ → 堆肥 → 園芸
 ② 生ごみ → 堆肥 → 園芸
 ③ 生ごみ → 堆肥 → 園芸

